

■虫を調べる ヒゲナガヤチバエ?

ハエを捕まえて顕微鏡で観てみると、ともかく変わった形をしているので、ついつい写真を撮ってしまっています。それならついでに検索をして、ブログにも出して・・・と思って、つい忙しくなります。さらに、そうやって検索をしてみると、いつも不安材料があつて、それでタイトルに？をつけることになつてしまいます。今回も例にもれず？つきです。いずれにしても、素人がやっていることなので、間違っているところも多いと思います。いろいろとご指摘いただければ幸いです。



今日のターゲットはこのハエです。

上から見た時は頭が銀色に光っていて、触角がやけに長いなど思ったほかはそれほど奇異な感じがしなかったのですが、顕微鏡で観てみるとやはり変わった形のハエでした。体長は七、ニミリ、前翅長六、三ミリ。検索を行ってみると、ヤチバエ科のヒゲナガヤチバエにたどり着きました。そこで、検索表に沿って進みながらその特徴を見ていきたいと思います。まず、ヤチバエ科に至る科の検索は「絵解きで調べる昆虫」が簡単なので、その検索表を使ってみました。といつても、絵解きで説明がないので、「原

短角亜目(アブ類を除く)の科への検索

- 1 額線・半月板がある
- 2 無弁類
- 3 R4+5脈とM1+2脈は翅縁で離れない
- 4 前縁脈はSc切れ目を欠く
- 5 鬚剛毛を欠く
- 6 R4+5脈とM1+2脈は翅縁で接近しない
- 7 脚脛節末端部背面に1-2本の剛毛を持つ
- 8 後単眼剛毛の先端は交差せず、左右に開く
- 9 R1脈が翅前縁の中央付近で翅縁に達する



Fig. 1

色昆虫大図鑑」の検索表を見ながら、適当に書いてみます。

短角亜目という触角の短い種類についての部分です。実際には、検索は無弁翅類から進んでいったので、一を飛ばしてしまっていました。後で、表の形に書こうとして、さて一の額線はどれだろうと思って迷ってしまいました。頭の部分の写真を左に載せます。額の部分がよく分からないので、点線で囲った部分をさらに拡大してみます。



Fig. 2

額線は「大図鑑」には額囊溝と書いてあります。さらに、検索表には「ヤチバエ科のヒゲナガヤチバエ属 *Sepedon* では額囊類であるが半月瘤は発達しない。本属は触角梗節が著しく長い。」という注釈がわざわざついています。写真を見ると上にも下にも突起があるのですが、その間にある浅い溝のことかなと思っ
ていますが、よく分かりません。(追記…額囊溝は Fig. 5 の触角から斜め下に続く溝のことかもしれません。そうだとすると、触角の上側では溝がはつきりしていないので、Fig. 2 で書いた浅い溝は違うか

もしれません)(追記…先に書いた追記に従って、Fig. 2 の額線の位置を修正しました。でも、合っているかどうか・・・)

二-四は翅に関する事なので、翅の写真を載せます。

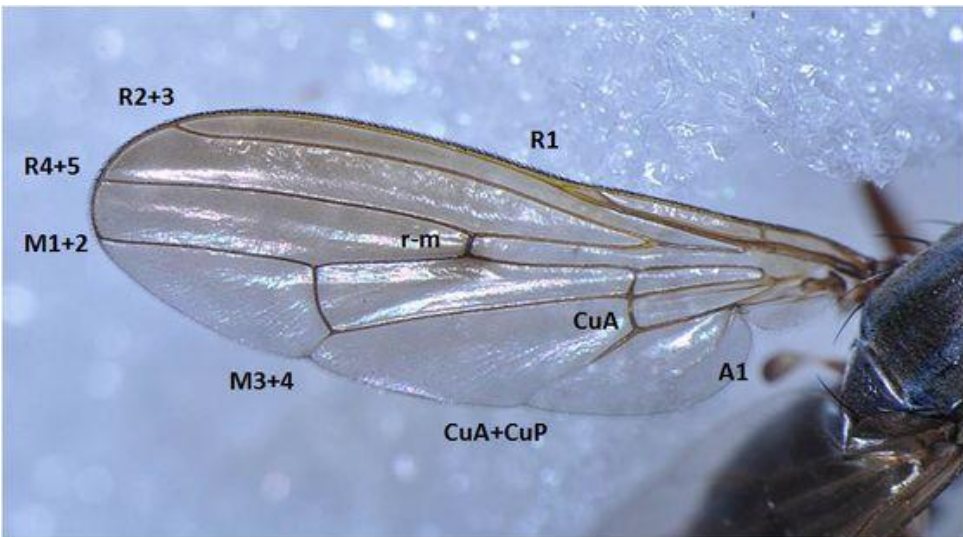


Fig. 3

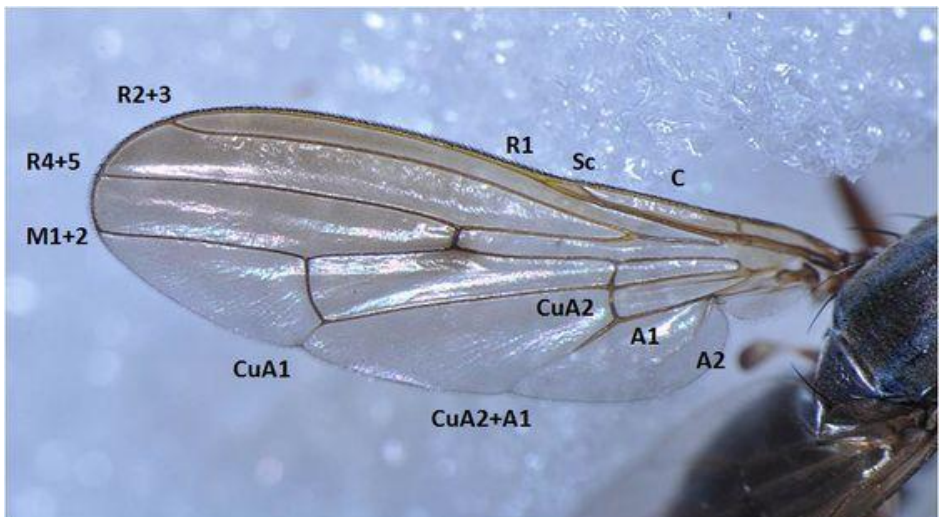


Fig. 4

翅脈については、例によって、「大図鑑」風の名称 (Fig. 3) と外国のサイトや論文に載っているやり方 (Fig. 4) を併記しておきます。ただ、これも適当に付けた部分があるので、間違っているかもしれない。まず、二の弁というのは翅の付け根にある膜状の構造のことですが、これにはありません。従って、無弁類ということになります。三の翅脈についてはどちらの図を見ても構わないのですが、いずれにしても

R4+5脈とM1+2脈はほぼ平行に走っています。従って、三はOKです。四のSc切れ目というのはSc脈が前縁に達するところで、前縁を走るC脈が切れてしまうことをいっているのですが、上の図を見ると切れてはいないので四はOKです。

次の五は鬚剛毛に関するものなので、顔の部分の写真を載せます。顔は異様な格好をしているでしょう。斜め左上にある丸いものは口です。鬚剛毛はその口の脇に生える剛毛ですが、まったく剛毛は生えていません。それで五はOKです。六はまた翅脈に関する



Fig. 5

ものです。R4+5脈とM1+2脈はほぼ平行に走っているのものでこれもOKになります。次の七は脚の脛節に関するものです。(追記：額線の位置を追加しました。合っているかどうかは分かりませんが・・・。さらに、図の番号を訂正しました。それに伴い、これ以後の本文の一部を変えています)(追記：頭盾と書いた場所は顔板のようです。頭盾は口のような穴のすぐ内側にあるみたいです。田中氏の「家屋害虫の同定法(2)」の2015/03/22：田中氏の「家屋害虫の同定法(2)」のFig. 43b-1に従って、図を書き換えました)



Fig. 6

これは捕獲脚のような感じの後脚の部分です。よく見ると、脛節末端の背面に剛毛が生えています。それで七もOKとなります。次の八の後単眼剛毛についてはFig. 1でも分かっていますが、次のFig. 7でも分かります。

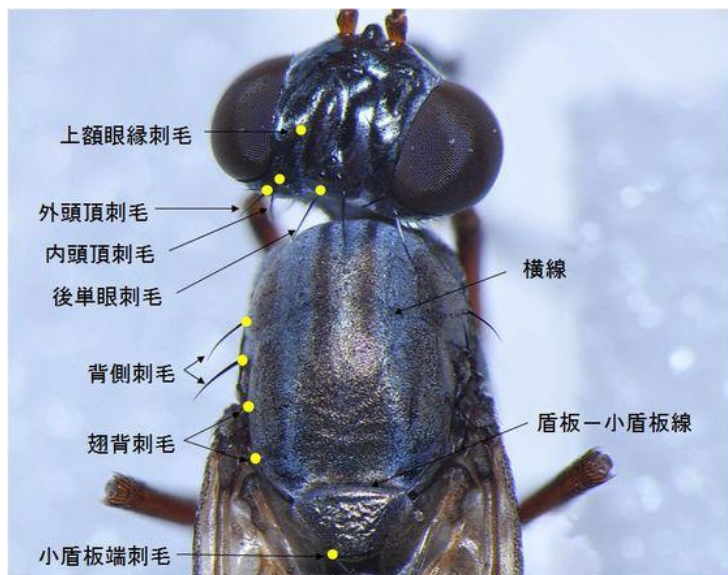


Fig. 7

後単眼剛毛というのは単眼の後ろにある一対の剛毛のことです。この二本がどちらを向いているかで科が分かります。この個体では二本の剛毛の先端がやや離れていくようになっています。それで八もOKになります。最後の九はSc脈が前縁に出る位置ですが、翅のほぼ中央です。これでヤチバエ科に到達しまし

た。

ヤチバエの幼虫は一般に水生で、ヒゲナガヤチバエも水面下で生息しているそうです。そこで、この科については「日本産水生昆虫」(東海大学出版会)に詳しく載っていました。この本に書かれていたヤチバエ科の特徴は次の通りです。

ヤチバエ科の特徴

- 1 1-2対の上額眼縁剛毛をもつ
- 2 下額眼縁剛毛を持たない
- 3 鬚剛毛を欠く
- 4 後単眼剛毛の先端は交差せず、左右に開く
- 5 頭楯は口縁より前方に突出しない
- 6 脛節末端部背面に1-2本の剛毛を持つ
- 7 前縁脈は肩横脈や亜前縁脈の終点で分割されない

いろいろと書いてあったのですが、青色の部分はずでに検索表で調べたものです。それ以外を見ていきます。まず、一は次の写真を見るとよく分かります。

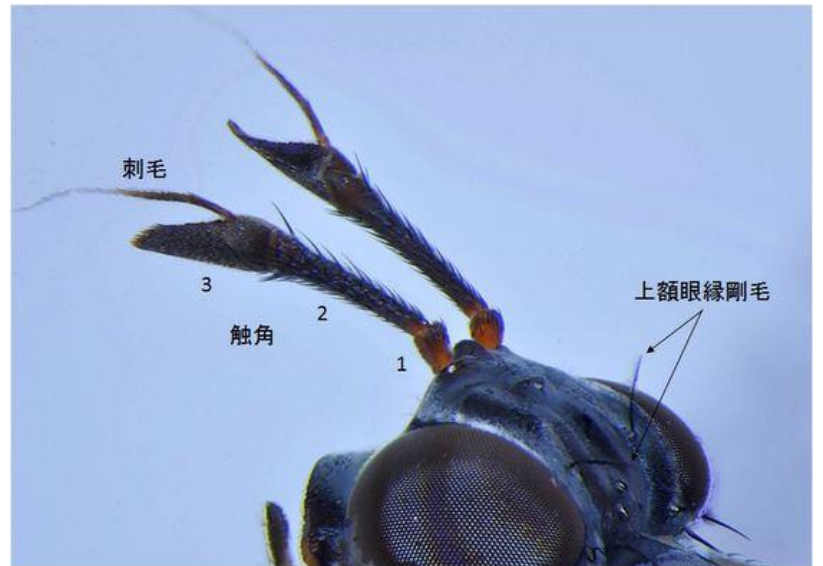


Fig. 8



Fig. 9

これは頭の部分の拡大です。ずいぶん奇妙な触角があるでしょう。ついでだから触角も拡大してみます。

上額眼縁剛毛というのは上の方の写真で示したものです。他に剛毛は見えないので、二もその通りなのでしょう。五の頭楯は上の写真で示したものが、口縁より先に出ることはないようです。これでヤチバエ科の特徴も確認できました。

次は属への検索です。これも「水生昆虫」に載っていたものです。

ヤチバエ科の属への検索

- | | |
|---|---|
| 1b 前胸側板は前胸側剛毛を持たず、無毛 | 5 |
| 5a 中胸盾板は横線の前に前翅背剛毛、盾板小盾板線の直前に中剛毛を持つ | 6 |
| 6b 触角第3節先端に長く発達した剛毛束はなく、全体に短毛で覆われる | 7 |
| 7a 上額眼縁剛毛は1対
触角第2節は第3節より明らかに長く、棍棒状
前翅は透明、たかだか横脈上もしくは端半部に暗色を帯びるのみで、網目状ではない | |
- ヒゲナガヤチバエ属 *Sepedon*

Fig. 9の前胸側板は次の写真で分かります。

この部分には剛毛はないので、Fig. 9に進みます。この項目が問題です。Fig. 9に「大図鑑」にならつて剛毛の名前を入れてみました。なお、「大図鑑」では「剛毛」ではなくて「刺毛」と書いてあるので、それにならつていきます。写真でも分かりますが、残念なが



Fig. 10

ら、Fig. 9に書いてある剛毛はいずれも存在しません。それでは検索表の別の項目に進めばよいかというと、この個体の性質とはかなりずれてきます。外見からはヒゲナガヤチバエの仲間の間違いないと思うのですが、とにかく不思議です。そこで、とりあえず、この項目を飛ばして進みます。

次のFig. 8の触角についてはFig. 8または9でも分かりますが、第三節に剛毛束などはありません。それでFig. 9に進みます。7aの最初の項目はすでに確認し

ヒゲナガヤチバエ属の種への検索

- | | |
|----------------|------------------------------|
| 1a 頭部は青みがかった黒色 | ヒゲナガヤチバエ <i>S. aenescens</i> |
| 1b 頭部は黄褐色 | ヒラタヒゲナガヤチバエ、ヒガシヒゲナガヤチバエ |

ました。二番めの項目は触角第二節が第三節より明らかに長いことで、Fig. 8でも分かりますね。最後は翅が透明であることです。ということで、不安材料を抱えたままではありますが、ともかくヒゲナガヤチバエ属になりました。

次は種への検索です。これは簡単で、頭部の色で他種と明確に区別できるようです。従って、ヒゲナガヤチバエだろうということになりました。

最後はおまけで、Fig. 10で白っぽく見える部分を拡大した写真です。白い細かい毛で覆われているようです。撮影してからどの部分を撮ったのか探してみたのですが、どうしても見つかりません。どこを撮ったのでしょうかね。

ヤチバエ科という初めての科を調べてみました。口の構造といい、触角といい、実に変わった形をしていました。そこで、つい検索もやってみる気になりました。胸背の剛毛について合わないところもあるのですが、外見からおそらくヒゲナガヤチバエで間

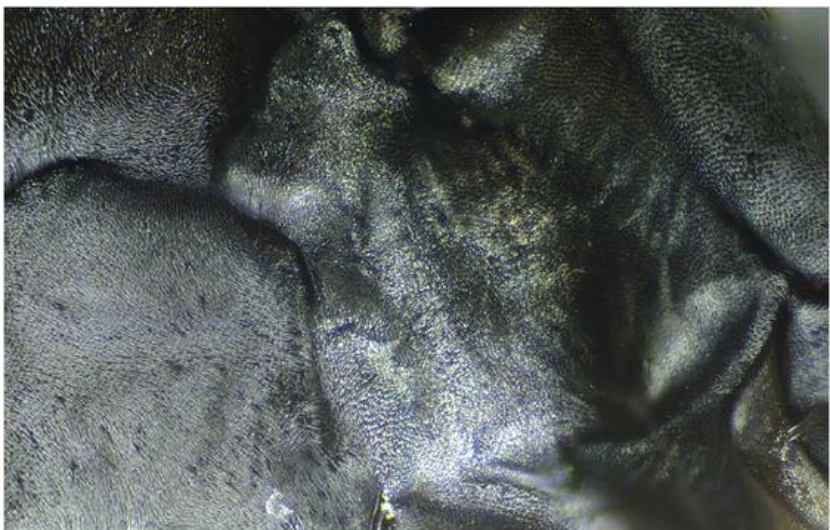


Fig. 11

違いないのではと思っています。それにしても剛毛は難しいですね。

(追記…ヒゲナガヤチバエの生活史について次のような論文を見つけました。)

永富昭、榎下町鉦敏、*Kontyu* 33(1), 35 (1965).

この論文には、ヒゲナガヤチバエが水辺で暮らし、水草などの水辺植物に卵を産むこと、そして、幼虫は水中での呼吸ができないので水面上で暮らして、ヒメモノアラガイなどの貝類を食することが載っています。蛹化は水際のもものならなんでもよくて、成虫は一年中見られるとのこと。ヒメモノアラガイは肝蛭を媒介する有力な中間宿主と知られ、また、卵はズイムシアカタマゴバチに大量に寄生されるので、害虫であるニカメイガにも寄生するズイムシアカタマゴバチの存続に貢献しているとのことです)

(2014. 12. 31 記)